



第十四章 獨逸

直稅收集規則 第一節

- 第一章 地方收稅方職務章程
- 第二章 地方收稅方職務範圍
- 第三章 諸直稅畜犬稅及上內國火災請合料收入期限
- 第四章 地方收稅方記簿規程
- 第五章 收入規程
- 第六章 收入稅金納附規程
- 第七章 滯納稅處置規程

大藏省 翻譯課





諸直税并畜犬税内國火災請合料ノ收入規則(千八百七十四  
年十一月十七日發行)

今般將ニ獨逸新貨發行ノ舉アラントレ且獨逸帝國ノ布令ニ據  
テ曩ニ直税收入方法ニ涉リ改定スル所アルヲ以テ予茲ニ千八  
百五十四年六月二日發行ニ係ル諸直税并畜犬税内國火災請合  
料ノ收入規則ヲ廢シ更ニ左ノ條例ヲ定ム

○第一章 地方收稅方ノ職務章程

第一條

諸直税并畜犬税内國火災請合料ヲ收入シ及テ之ヲ各縣出納支  
局ニ納付スル事務ハ各區收稅方ヲ置キ擔任セシムベシ

(甲) 住民二千ニ超エル地區ノ收稅局ハ勿論仮令七千人  
ニ至ラサル地區ノ局ナリトモ若シ間稅收入事務ヲ兼任セシ  
ムルトキハ政府ノ見込ニ據テ建設スヘシ(千八百五十年三月

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

五日發行ノ官省改定布令中第五共第六十七條ニ涉リ千八百五十三年十二月十七日發行ノ附録第一條ニ照準スヘシ  
(乙) 其他ノ地區ニ在テハ前ニ記載セル千八百五十年三月五日發行ノ布令中第五共第六十七條ニ照準シ各區内人民ノ見込ヲ以テ収稅局ヲ建設スヘシ

### 第二條

前條(甲)ニ於テ制定セル政府補任ノ収稅方及其職務ハ千八百五十年三月五日發行ノ内國職務條例(行政新報百二十七葉共次葉ニ見ユ)第二條ニ於テ制限スルモノ、外ハ都テ該條例ニ照準スヘシトス

### 第三條

各區ヨリ撰舉セル収稅方ハ第一章(乙)直ニ區務所ヨリ補任スルヲ得ス

収稅方ノ撰舉ニ方リ其區又ハ區内事務員ノ利益ヲ謀リ該候補人ヲ要約スルヲ得ス

### 第四條

第一章(甲)ニ於ケル収稅方ヲ除ク外ハ収稅方ハ其職ヲ辞セんと欲スルニ方リ先ツ區長ニ之ヲ告ケサルヘカラス  
前文ノ如ク辭職スルカ或ハ死亡ニ拠テ新ニ欠負シ又ハ欠負既ニ久キ際ニ在テハ區長ハ速ニ區務興議(千八百七十四年六月二十四日ノ新區務條例第八十三章第十四節共第四十三四十四兩條中第五節第四十六節及第八十節ニ見ユ)ニ通シ若シ其區ノ規程ニ從ヒ區務興議ノ設ナキ地ナレハ區會ニ就テ補員ヲ撰マシメ報告書ヲ製シテ大藏寮ニ上申シ其命ヲ得ツベシ  
右ノ報告書ニハ區務興議又ハ區會ノ撰舉決議ヲ明書シ區長及興議長又ハ區會議長之ニ鈐印シ若シ區長會此ノ撰ニ當ラハ其

代理人鈐印レ所管縣令ノ証印ヲ副ユヘシトス  
収税方ヲシテ保証金以テ金額ヲ害ラ豫防スヲ出サシムル  
ト否トハ專ラ其區ノ見込ニ委ヌ但區ハ収税方ニ代テ保証ノ責  
アリ

區ヨリ撰舉セル収税方ヲシテ卷末ニ附セル甲号誓詞ニ從テ誓  
ハシメ并出勤ヲ命シ収入税金ヲ引渡ス等ハ若シ撰舉ノ方并撰  
舉ヲ得タル人ニ對シテ更ニ異論ナキニ方リ其管長局タルヘキ  
大藏寮ノ指令ヲ以テ出納局ヨリ命スルモノトス

凡ソ撰舉ノ方法及撰舉人ニ關スル爭議ハ縣令又ハ縣代議士會  
中ヨリ再撰スル者ニ  
テ亦行政改ノ權アリ之ヲ判断スルモノトス新區務條例第百四  
十五章ニ見ユ

若シ地區ニ命シテ収税方ヲ撰舉セシムルモ敢テ之ヲ撰マサル  
カ又ハ撰舉人辞シテ職ヲ奉セサルニ因リ収税事務上為ニ不利

ヲ生スルヲ視ハ政府ハ仮ニ収税事務ヲ受理シ費用ハ民費ヲ以  
テ給セシムヘシ

第五條

區ハ其方内ニ於ケル収税方ニ代テ責任ヲ帶ルヲ以テ區長ハ常  
ニ収税方ヲ監督シ其事務ヲ執ルニ敢テ規程ニ戾ラサルヤ又局  
内殘金ノ高ハ規則上豫定ノ數額ニ超過セサルヤヲ視ルヘシト  
ス

第六條

地方収税方ノ長局タルモノハ

甲 會計本局

乙 大藏寮

候領司管ヲイマルルニ在テハ大藏事務ヲ大政官中ノ一局ニ  
司管セシメ之ヲ大藏寮ト稱シ會計本局ハ該寮ノ一分課ニ屬ス  
而メ今却テ會計本局ヲ以テ甲ノ部ニ置クハ是レ該局ハ収税方ニ對  
シテ直接ノ監督權ヲ帶ルヲ以テナリ

収税方ハ此等ノ長局ヨリ命スレ所ノ事務ヲ奉シテ常ニ怠慢ス  
ヘカラス又該長局ニ在テハ収税方ヲシテ其命ヲ遵奉セシメン

為ニ懲戒律ヲ以テ之ヲ罰責スルノ權ヲ有シ且時々檢査及出納  
巡視ヲ行テ執務ノ否如何ヲ監察スルノ權アリ

第七條

區ヨリ補撰セル收稅方ハ若シ職務ニ稱ハス或ハ曾テ懲戒律ニ  
ヨリ罰責ヲ受ルモ尚ホ怠慢敢テ改メサルトキハ大藏寮ハ其區  
ヲテ之ヲ罷免シ適當ノ者ヲ再撰セシムルノ權アリ其他從來ノ  
收稅方ハ罪アリテ裁判所ノ訊問ヲ受ルトキハ大藏寮ハ該區ニ  
命シテ仮ニ代貸ヲ舉ケシメ後裁判ニ拠テ有罪ノ狀明白ニ至レ  
ハ免職セシムヘシ

區若シ適當ノ收稅方ヲ撰擧セス隨テ該收稅局ノ職責ヲ欠クト  
キハ大藏寮ハ臨時自ラ局務ヲ司管スルコトアルヘシ但此ノ際諸  
經費ハ區ヨリ之ヲ出サシム(千八百五十三年十二月十七日ノ官  
省改定令附録第二款ニ見ユ)

○第二章 地方收稅方ノ職務範圍

第八條

地方收稅方ハ左ノ諸稅ヲ收入ス

(第一) 諸直稅

(甲) 旧地稅

(乙) 第一級及第二級地方歲入稅第十條ニ  
詳カナリ

(丙) 外國高工ノ内國ニ營業スル者ヨリ擧クル産獲稅ト始  
稅ニ同シ但持ニ之カ收入ヲ命セラレタル吏員ニ限  
ル

(第二) 畜犬稅

(第三) 内國火災請合料

右ノ諸稅ハ其區内限リ(然レトモ第一ニ屬スル稅類ハ依令ニ  
免稅セル田園ナアトモ其地租帳ニ記載セル者及所有主ハ他區

ニ住居スルモ田園ハ區内税價表ニ記在スルモノヨリ之ヲ収ム  
ヘシトス以下各種ノ税類ヲ就テ追條示ス所ノ原旨ニ拠リ収入  
スヘシ

第九條

旧地稅ハ區内ノ田園ハ勿論又其地租帳ニ屬スル區外ノ田園ヨ  
リ攀ルモノニシテ之カ為ニ豫メ算定セル地租ノ税價ニ照準シ  
一歳ノ税額ヲ八三分ノ一ニ詳カナリニ分テ収入ス(千八百六十  
九年三月十八日發行ノ租稅憲法改正條例附録ニ涉ル千八百七  
十四年五月六日布令ノ第四號第五條ニ見ユ)

第十條

歳入税ノ収入ハ千八百六十九年三月十九日ノ歳入税條例同七  
十四年五月七日ノ該條例附録及同六十九年十一月十九日同七  
十四年十一月十一日ノ該條例施行ノ為ニ發セル事務章程ニ依

テ地方會計局又ハ地方租稅算定事務官ニ於テ税價表ヲ製シ之  
ヲ地方收稅方ニ授付シ其税額ヲ収メシム

第十一條

外國工商ノ内國ニ於テ營業スル者ヨリ攀ル産獲稅ハ警察所ヨ  
リ与ル所ノ營業鑑札ニ基テ収入スルヲ以テ唯此ノ如キ警察所  
設置ノ地方ニ於ケル收稅方ノミ該稅收入ノ任アリトス

第十二條

畜犬稅ハ千八百五十二年五月十二日ノ布令同三年十二月十五  
日ノ該令附録同六十八年二月十日ノ布令同五十二年五月十二  
日ノ行務章程同五十四年二月十五日ノ附録同六十八年三月二  
日ノ大政官布告ノ旨趣ニ照準シ其地方警察所及會計局ヨリ出  
セル記録ニ拠テ収入スルモノトス

第十三條

内國火災請合料 千八百二十六年八月二十八日ノ布令及千八百七十四年七月二十九日ノ布令ニ基キ地方會計局ニ於テ臨事報告ノ狀況ニ從テ毎年請合元帳ヨリ算定シ収税方ニ送付スル所ノ請合料人負簿ニ照準シテ收入スルモノトス

第十四條

其他収税方ハ大藏寮ノ命ヲ奉シ千八百三十九年三月十一日ノ租稅算定簿記載式ニ涉ル規程同六十二年二月十八日ノ租稅算定方職制及六十四年六十六年六十九年同年十二月二十四日并七十四年ノ該職制附録ニ照準シテ租稅算定簿ノ記載ニ任スヘシ

第十五條

収税方ハ諸長局例ハ租稅會計出ノ求ニ應シテ報告ヲ呈シ及納諸局等ノ如シ其職務上ニ涉ル要求ハ統テ命ニ應スヘク又指令ヲ奉シテ收入

セル税金ヲ納附スル義務アリ其他租稅延納或ハ免稅ヲ請フ者アルニ會セハ須ラケ真正忠實ノ心ヲ以テ請願ノ事情ヲ詳記シ自己ノ意見ヲ副テ上申スヘシトス

第三章

第十六條

第一 旧地租ハ全額ヲ八、三分ノ一ニ分テ之ヲ収ム

甲 一月一日ヲ以テ收入期限ノ初日トシ全額ノ一、三分ノ一ヲ収ム

乙 二月四月五月七月八月十月十一月ニ於テ毎月一日ヲ以テ收入期限ノ初日トシ各一分ヲ収ム

此ノ如ク毎三ヶ月ヲ一期トシ其期分ノ稅額ハ必ス皆納マレメ期ヲ超ヘレムニカラズ

第二 歳入稅ノ中第一類ノ第二級ニ屬スル者ハ一月一日ヲ以テ

全歳分税額ノ収入期限ヲ初メ毎三ヶ月全額四分ノ一ヲ納メレ  
ハトス又第二類ノ第一及第二級ニ属スル歳入税ハ一月一日ヲ  
以テ上半年分七月一日ヲ以テ下半年分税額ノ収入期限ヲ初メ  
此ノ日ヲ以テ半歳分ノ税額ハ既ニ収入満期ノモノト見做シ毎  
三ヶ月必ス其半額ヲ収メシムヘシ

(第三) 外國工商ノ産獲税ハ營業鑑札ヲ附與スルニ際シ収入スヘ  
シトス但該鑑札ハ營業税ト引替ニテ附與スヘシ

(第四) 畜犬税ハ四月一日及十月一日ノ兩度ニ於テ每半歳分ノ収  
税全額ヲ前納セシム

(第五) 内國火災請合料ハ其時々納附期日ヲ定メ之ヲ公告シ該期  
日ヨリ四週内ニハ皆納マシムヘシ

第十七條

地税ハ地租帳ニ於テ地主ヲ書替ヘサル間ハ必ス其地ノ名前主

ヨリ之ヲ収ム然レトモ若シ地主會外ニ在リテ代理人ヲ置カス  
或ハ家ニ在ルモ納税ヲ肯セス又ハ他ノ理由ニ因リ更ニ収税ス  
ルヲ得サルハハ収税方ハ須ラク其管長ノ税局ニ告ケ之ヲレテ  
臨時田園又ハ其作物及収獲ヲ以テ該税ノ抵当トナスヲ得セシ  
ムベシ

土地田園歳入税(歳入税第一等ノ第二級ニ涉リ税價表ニ於テ第  
一等ノ第二級ニ当ル者ハ如何ノ場合ニテモ全歳ノ税額ヲ納メ  
シムヘシ

歳入税第一等ノ第二級ニ当ル者ニシテ上半年ノ内ニ於テ從來  
ノ居住ヲ轉移シテ該轉居ハ既ニ税價表布告ノ後ニ係ルハ前  
住居ノ區ニ在テ唯上半年ノ税額ノミヲ収ムヘシ(第十六條ノ第  
二ヲ参考スヘシ)  
然レトモ右轉居ハ七月一日以後ニ係ルハ全歳ノ税額ヲ先住



ノ區ニ納メシムヘシ

若シ獨逸帝國貫屬者ニテ一時候領内ニ住シ半年内ニ於テ之ヲ去リ他ノ聯邦ニ轉住シ又ハ一時候領内ニ在テ納稅義務アル獨逸帝國貫屬人ノ領内未タ住居ヲ設ケス而既ニ之ヲ去リ他ノ聯邦ニ至ル者ニテ第一等ノ第一級若クハ第二級ノ歲入稅ヲ收ムヘキニ当ルハ其轉去セントスル月末マテノ稅額ヲ收ムヘシ但千八百七十年五月十三日ノ二重課稅廢止布令共同七十二年二月二十八日ノ布令第三節ニ從テ候領中ニ住居又ハ滯在セサル獨逸帝國貫屬人ヨリ收ムル所ノ歲入稅ハ此ノ例ニ非ス即チ此ノ類ノ歲入ハ候國帑藏ヨリ給与スル給俸御用滯在金隱居料又ハ候領内ニ在ル土地ニ係ル永代利金永代若干ノ利金ヲ約シテ土地ヲ附與スル或ハ其他所有權ニ屬スル諸利得金土地所有ノ權ニ依テ年々若干ノ利得ヲ納メシム又ハ此ノ如キ土地ヲ貸附及利用シテ得ル所ノ收獲

金候領内ニ於テ設營スル諸工業其曩ニ候領内住居ノ際設置セラル工業ニシテ其人既ニ去ルノ後尚ホ續テ營業スルモノ等ナリ

第十八條

内國火災請合料ノ收入規程ハ第十七條ノ第一節ニ掲クル地稅收入ノ規程ニ照準スベシ(千八百二十六年八月二十八日ノ布令

第四十四ヲ参考スベシ)

第四章 地方收稅方ノ記簿規程

第十九條

地方收稅方ハ其擔當ノ事務ニ涉リ帳簿及計算ヲ調整シ次ノ件々ヲシテ常ニ明瞭ナラシメサルヘカラス

(甲)當ニ收入スヘキ諸稅ノ全額

(イ)全地方ノ收入高

(呂)各納稅人ニ係ル明細高

(乙) 既ニ収入セ 諸税ノ高

(伊) 全地方ノ収入高

(呂) 各納税人ヨリ既納ノ明細高

(波) 納税ノ期限

(丙) (甲) (乙) ノ税額ヲ比算シテ得ル所ノ有金高

第二十條

上第十九條ノ旨趣ニ基キ茲ニ収税簿式ヲ制定スル左ノ如シ

(第一) 旧地税ハ卷末(呂)号ノ簿式ニ照準ス

(第二) 歳入税ノ中第一級ハ(波)号ノ簿式ニ照準スヘク第二級ハ

税價表中該税ノ部ニ当ル線畫ニ依ラベシ

(第三) 外國工商ノ内國ニ在テ營業スル者ヨリ収ムル産獲税ハ

(仁)号ノ簿式ニ照準ス

(第四) 畜犬税ハ地方収税局ニ送附スル所ノ記録ニ照準スヘシ

トス

(第五) 内國火災請合料ハ各納料人負テ別記シ一々線畫ヲ分ツ  
ベシ

第二十一條

第二十條ニ於テ示セル(第一)(第二)(第三)ニ属スル帳簿ハ一ケ年三  
ケ月及一期ニ渉ル収税金額ヲ各々別々ニ記載セサルヘカラス  
若シ右定期外ニ当ル税額ニシテ既ニ納付ニ就クモノアレハ其  
相当ノ線畫内ニ登載シ此ノ徴号ヲ記シテ區別スヘシ

第二十二條

直税ノ収額三千マルク稅カ七百五拾四ニ当ルニ至ル地方ニ於テハ前條ノ  
帳簿ノ外又卷末(保)号ノ簿式ニ照準シテ日記ヲ録シ一々収税ノ  
高ヲ載スヘシ  
仮令ニ直税ノ額二千マルクニ至ラサル地方ナリトモ収税方ノ

意見ニ隨テ又該口記ヲ録スルヲ得ヘシ

○第五章 收入規程

第二十三條

地方収税方ハ納税人ヨリ納付スル所ノ諸税及火災請合料ヲ納  
税人所持ノ租税受取帳ニ証記スヘシ但該帳ハ納税人自費ヲ以  
テ製スヘキモノトス

第二十四條

右ノ請取帳ニハ左ノ件々ヲ証記スヘシ

(第一) 納付セル税類例ハ地稅又ハ歲入稅ト記ス等

(第二) 其量數

(第三) 何レノ三ヶ月分又ハ第何期分ニ係ルカヲ記ス

但納税人ヨリ各種ノ諸税ヲ一箇ニ纏メ納ムルハ右總額ヲ録  
ス

其他課物ノ名目 例ハ家屋田圃資本高即チ歲入稅ヲ課  
車馬等ノ如シ 資本高 即チ歲入稅ヲ課  
スル資本金高ナリ 火災請

合料ノ賦課元金高等ハ受取帳ニ録スルヲ要メスト虽若シ納税  
人ヨリ之ヲ望マハ其詳細ヲ口陳セサルヘカラス

第二十五條

収税方ハ納税ニ際シ三ヶ月分又ハ一期分ノ全額ヲ要求スヘキ  
ヲ常トス然レトモ其事情ニヨリテハ右全額ニ充タサルモ尚ホ  
収納スルヲ得

第二十六條

納税ノ際一「フエン」ニ充タサル分數ハ皆全一「フエン」ニ充  
算シテ之ヲ収ムヘシ但其当日ニ於テ納ムル所ノ稅額總計上ニ  
生スル分數ニ限ル

第二十七條

納税ニ用ユル貨幣ノ種類ニ就テハ獨逸帝國條例ニ據テ別ニ規

程ノ変更スルニ非ルヨリハ從來ノ法ニ則ルヘク就中千八百七十三年七月九日ノ獨逸貨幣條例同十四年二月二十五日ノ候領撤遷ニ於ケル獨逸新貨通用條例并同年三月十日ノ太政官布告ニ照準スヘシトス

### 第二十八條

紙幣(拂手形及銀行紙幣)ヲ以テ納税スル者ニ就テハ從前ノ如ク豫テ之カ為ニ制定セル規程ニ拠ルヘシ

### 第二十九條

第二十七并第二十八條ノ條件中若シ改定スルトキハ大藏寮ヨリ其都度地方収税方并人民ニ布達スヘシ

### ○第六章 収入セル税金ノ納付規程

### 第三十條

地方収税方ハ遲クモ毎三ヶ月ノ後四週内ニハ其期內ニ於テ

収入セル直税ノ分ヲ會計局ニ皆納セサルヘラス但該三ヶ月中ニ在テ収入ノ金額畧ホ集マリ次第其時々之ノ納附スヘク又會計局ハ茲ニ注意シテ怠慢ナク納付セシムヘシ

### 第三十一條

然レトモ該皆納ノ日ニ至リ租税又ハ火災請合料ノ中尚ホ滞納ノ分アルキハ収税方ハ右滞納金ノ明細書ヲ製シテ會計局ニ出スヘシ但其金高ハ既ニ納附セル現金高又ハ現金ト見做スヘキ給料証書取入金ヨリ吏員ノ給料ヲムノ金高ヲ金算シテ其三ヶ月分収税ノ總高ニ称ハスハアルヘカラス若シ此ノ規則ニ悖リ總計上不足ヲ生スルアレハ収税方自己ノ滞納金即チ収税方ハ自費ヲ以テ此ノ不足分ヲ收入セト見做シ處置スヘシ

畜犬税ノ納付ハ千八百五十二年五月十二日ノ畜犬税施行條例第五條ノ規程ニ照準シ五月一日并十一月一日マテニ會計局ニ

納ムヘシ

若シ該税ノ申滞納アラハ亦明細書ヲ出スヘシ

第三十二條

納付スヘキ税金ハ規程ニ照準シテ之ヲ包封シ自ラ會計局ニ携ルルタ又ハ郵便局ニ托シ其受証ヲ求ムヘシ

第三十三條

各種貨幣ノ包封方法ハ大藏寮ヨリ別ニ規則ヲ設ケ令スヘシ

第七章 滞納税ノ處置規程

(甲) 地方収税方ノ取扱心得

第三十四條

地方収税方ハ毎三ヶ月ノ後遅クモ十四日間ニハ該日ニ至リ尚ホ納税セサル者ノ家ニ就テ區務所使僕又ハ之ヲ為ニ雇入レタル僕隸等ヲシテ催促セシムベシ但該手数ノ為メ千八百六十五

年八月三十一日ノ布令第百二十四條第四節ニ基キ若干ノ手数ヲ收ムルモノトス

雇僕又ハ諸雇工例ハ製造所ニシテ其歳入税ハ千八百六十九

年三月十九日ノ布令第八十三條ニ從テ其雇主又ハ投業主例ハ製

造所ノ主人ヨリ納附スヘキ責任ヲ帯ヒス隨テ此等ノ主人ヨリ

納税セシムルトキハ勢ヒ雇僕及雇工ノ給料ヲ差引ヘキトキハ

収税方ハ其額ノ八百六十九年六月二十一日聯邦布令ノ雇僕及雇

工給料差引規則ニ注意シテ毎三ヶ月ノ後速カニ納税ヲ促スヘ

シトス

第三十五條

収税方ハ諸税及火災請合料ノ滞納金ニ涉リ遅クモ四月七月十月正月ノ毎月末迄ニハ毎納期中ノ滞納分ヲ調査シ但畜犬税ハ五月一日及十月一日迄ニ於テ其滞納ヲ勘査シ上第三十一條ニ

於テ定ムル所ノ明細計算書ヲ製シ其長局ナル會計局ニ出シ  
滞納者ハ規程ニ從テ正ニ催促ヲ尽セルニ相違ナキ証書ヲ請  
ハルベカラス  
但滞納者ノ中勢々給料ノ差引ヲ以テ納メラルヘカラサル者(三  
十四條第二節ニ見ユ)ハ別ニ之カ明細計算書ヲ製シ遅クモ四月  
七月十月正月ノ毎月中旬迄ニ會計局ニ出シ証書ヲ請ハサルヘ  
カラス

第三十六條

第三十五條第一節ニ於テ謂ヘル諸直税及火災請合料ニ涉ル明  
細計算書中左ノ滞納金ハ記入セサルモノトス

(甲) 第三十五條第二節ニ從テ別ニ明細書ヲ製スヘキ滞納金

(乙) 特ニ延納ヲ許シ随テ未タ其納税期限ヲ經過セサル滞納ノ  
分

(丙) 滞納ニ因テ其元品土地家屋其他該物ヲ官ヨリ抵当トシ  
テ取リ上ケ或ハ競賣ヲ命シタル分

但(甲)乙兩部ニ属スル滞納金ニ就テ収税方ハ各別ニ明細書ヲ調  
整シテ前ノ明細計算書ト共ニ會計局ニ出スヘシ



